



作業風景



地域活動支援センター「すぎの木工房」

私達の工房では、心の病を持つ人たちが黒豆の選別やアルミ缶の回収などの作業訓練や料理実習、地域の清掃など生活訓練を通して社会復帰を目指しています。

平成11年7月、家族会の熱い思いが実り、「共同作業所すぎの木工房」が開所、障害者自立支援法に基づき平成16年8月「NPO法人しさわ」の設立、平成19年4月「地域活動支援センターすぎの木工房」に移行しました。

以前は、山崎町中広瀬の民家を借りていましたが、河川改修計画により平成20年4月より現在の山崎町宇野に移転しました。

現在20名が登録しており、家族会の皆様の支援、行政及び地域の方々の理解と援助により交流を深め、テクノや市内各町のイベントにも参加し、通所者、職員、ボランティア

で頑張っています。今後の展望としては、家族会員の高齢化に伴い障がい者が安心して生活できるよう、障がい者自立支援法の見直し、市福祉計画にも盛り込まれています。グループホームの一日も早い実現に向けて努力しています。

地域の皆様もメンバーの作業をしている姿を見学し激励していただきますようお願いいたします。工房内には木工製品を陳列していますので、是非一度足を運んでください。

地域活動支援センター

「すぎの木工房」所長 志水顕喜



干支の置物 販売しています



県立千種高等学校と

市立千種中学校

「連携型中高一貫教育校」

特色ある3コースを設置し、計画的・継続的な教育活動により、進学（国公立大）、就職（大企業）地元企業、公務員）等希望の進路を実現します。部活動では、重点強化部を指定し、県大会出場以上のレベルを目指します。

また、1月22日（金）には西播磨の中学校・高校と県下の小規模校の関係者を招いて「中高連携授業研究協議会」を本校で開催します。

全国インターハイ・国体（ライフル射撃）、関西高校選手権（ゴルフ）出場



体育大会宣誓シーン



自然保護のため再生紙を利用しています。



大豆油インキで印刷しています。

宗栗市議会だより

平成22年1月15日